

修了式・卒業式

平成19年度の修士学位授与式(修了式)が3月24日に、学部の卒業式が3月25日に総合体育館で行われました。畜産資源からは、4名の修士修了生と2名の学部卒業生を送り出しました。尾池総長のダンディーな姿と女性研究者が今後もっと増えるように全学で取り組んでいきたいというメッセージ、ハプニングを笑いに変えるおおらかさにちょっとうっとりでした。(総長カレー買っちゃおうかな *^_^*)

毎年話題満載の京都大学修了式&卒業式ですが、今年は修士のほうで舞妓さん(男性)が、学部の方では大仏様も登場したという噂です。畜資の姉さんも、まさかの袴姿で登場で周囲の人々を硬直させまくっていました。袴姿なのに何故か修了生のお母さんと間違われる始末…(苦笑)。思い知ったというか、ちょっと反省しました。

さて、修了式から研究室へ戻る途中、月末の学会旅行用に学割を取ろうとしたところ、

「本日修士を終了された方は、学割の発行はできません。21日に終了しました。」との張り紙が…学割自体は、発行さえしておけば3月31日まで有効なのに…。皆さん学割は前もって取っておくよう心がけましょう。

修了式が11時に閉会し、午後1時からは応用生物科学専攻の学位授与式が執り行われました。教授陣の見守る中、専攻長より修了



畜資の修士修了生

生一人ひとりに学位記が授与されました。集合写真のあとは、事務手続きがあり、2年間お世話になった学生証を返却しました。せつかくの学生証、記念に

取っておけないものですかね～ま、それはさておき皆さんよく頑張りました！



鴨川の桜

目次:

～広岡先生の随筆⑨～ 2
父のこと

学会ニュース 3

ネパールでの一日 3

畜産資源の思い出 4

平成19年度はくび会 4
総会と送別会

昨年度の総評と今年の 5
抱負

お知らせ 6

贈る言葉～卒業生・修了生のみなさん、おめでとうございます～



【熊谷先生】おめでとうございます。皆さんがこの部屋で過ごした期間は、それまでの学生生活や社会人としての生活とはかなり異なる、善かれ悪しかれ“研究三昧”の日々であったらうと思います。これから社会人となる方にとっては、当研究室での振る舞いが社会人としての身の処し方に、そのまま移行可能なわけはありませんが、「好きな研究をとことん極めた」ことは、ある種の自信と誇りとなり、将来の糧になることを約束します。

思えば、私自身も数年前に全く白紙の状態の研究室のメンバーと顔を合わせたわけですが、ほんの1-2年の間に、若い皆さんはさまざまなものを吸収して飛翔するものと感嘆します。一方、私自身も皆さんとともに研究に携わりながら変化していく実感があります。人はその置かれた環境で変わります。当研究室が、教える側にとっても教えられる側にとっても、よりよくなっていく環境であるよう今後も心がけたいと思います。



【大石先生】皆さん、おめでとうございます。卒業生の2人は異なる研究室ではあるものの、ともに大学院に進むということで、より専門性の高い研究を行っていくことと思います。なかなか良い結果が得られないこともあります(特に2人のような行動学的な研究では)、地道にやっていたら研究の面白さをより見つけることができると思います。楽しんで、がんばって、大学院生活を送って下さい。

修了生の4人は、博士後期課程へ進学する2人はそれぞれ自身の研究に対する姿勢を貫いてゆけばいいと思いますが、就職する2人は、新たな環境へ踏み出すのでよりがんばって欲しいと思います。今まで以上に様々な困難に直面することもあるかと思いますが、常に視野を広く持ち、周りのたくさんの人に支えられていることを意識していれば何でも乗り越えられるだろうと思います。自分自身に民間での業務経験がほとんど無いので偉そうな事は言えませんが、応援しています。

3月に入ってすっかり暖かくなったと思い、コートクリーニングに出した途端、冷え込みが厳しくなりました。北海道では、季節はずれの大雪に見舞われて大変だったようですね。例年より早く迎えた桜の開花でしたが、この冷え込みのお陰でいつもよりちょっと長く花見を楽しめそうです。昔から三寒四温と言いますが、天候も安定しない気まぐれな春です。新しい環境にも早く適応しなくちゃいけませんから体調管理を万全にして新学期に臨みましょう。

好評連載 広岡先生の随筆

⑨父のこと

私の父は、酒もタバコもバクチもやらず、母一人を愛したまじめ一筋の人間であった。京都大学経済学部を卒業した後、神戸高等専門学校で社会の教師として教鞭をふるい、58歳で定年を待つことなく退官した。父の人生はその大半を母と私たち子供に捧げ、平凡なものであった。しかし、私にとって、父は長い間ずっと「変わった」父であった。

父の変わっていたことを示すエピソードに次のようなものがある。母が小学校の教師で共稼ぎということもあったからであろうが、父はいつも母とともに台所で食事を作っていた。当時父親が台所に立つということは絶対にありえないことであったため、私は子供ながらいつも恥かしい思いをしていた。当時は他の誰に聞いても家事は母親の仕事というのが常識で、父親が台所で料理を作るといことは人に言えない秘密であった。そのことから、父はいつも他の父とは異なる特殊な存在であった。

また、次のようなこともあった。大学3年生の時であったと思うが、周りの友達みんな家の車か自分の車を持っていたため、私も車を購入したいと思い、父にお金の援助を頼んだことがある。父は、車の免許を持っていなかったが、「農学部であれば車の運転は必要であろう」と早くに私には免許は取らせてくれた。ところが、車を持つことは頑として認めてくれなかった。このこと自体はどこにでもよくある話で珍しいことはないが、その理由が「危ないから」や「かいしょがないから」などであれば納得もできるが、父のいう理由は「排気ガスをまき散らし環境に悪いから、遊びで乗るのは良くない」というものであった。そのことを友達にいうと、「変わった親父だなあ」といつも笑われるのがおちであった。

今になって思えば、これら2つのエピソードから、父の生き方や考え方は、世間よりずっと先にあったことが分かる。最初のエピソードに関して言えば、現在の若者の間では、家事をシェアするのはむしろ当然と受け入れられており、家事は女性の仕事などと言えば、女性蔑視と怒られ、大変なことになる。しかし、私の父と母は50年以上前からすでに家事の分担を行っており、いかに進歩的であったかがうかがえる。また、第2のエピソードについても、現在ならば「環境問題を考慮して、遊びで車に乗るべきでない」という父の発言はそれほど違和感がなく、場合によってはむしろエコな人と尊敬されるであろう。しかし、高度経済成長を終え、これからバブルを迎えようとしていた1980年代の前半に環境問題を理由にすることはいかに突飛であったかは想像できるであろう。しかし、父がそのような時代にすでに環境問題の重要性を認識していたことは、驚くべき先見性と言わざるをえない。

私は、父から勉強を直接教わったことは少なかったが、学問を行なうための基礎を多く学んだように思う。以前に述べたように「学問に王道はなし」という父の言葉には大いに勇気づけられた。つつい好きなものばかりを勉強しようとする私に、人間としての教養の重要性を説き、バランスよく勉強を行なう習慣を身につけてくれたのも父であった。また、高校時代に、父は「ソクラテスの弁明」などの哲学書を読むことを勧めてくれた。私のこれまでの経験から見ても、問題を解くための勉強を教えてくれる人は多かったが、学問の価値や取り組み方を教えてくれる人は少なかった。その意味で、父は本当の教育者の一人であったのかもしれない。

父は、京都大学をこよなく愛し、京都大学の出身者であることをいつも誇りに思っていた。叔父の息子が東京大学理Ⅲ(医学部)に合格した際も、なぜ京都大学を受けなかったのかと真剣に残念がっていた。父は京都大学には学部の4年間しか在籍していなかったが、京都大学の特質を本当によく知っていた。入学前に父から聞かされた京都大学の印象は、京都大学に長くかかわった今もまったく変わらない。

父の学問に対する考え方の原点は、京都大学の自学自習の精神にあった。父は受験勉強の必要性は否定しなかったが、大学に入ってはじめて本当の勉強ができるのだといつも言っていた。そして京都大学がその学びの場として最適な場所だと常々聞かされてきた。また、勉強は決して人からやらされるものではなく、自分で主体的に行なうものだと言っていたのを覚えている。

そのような父も今、病院で寝たきりになりつつある。10年以上に及ぶ透析生活と1年前から患っていた骨髄の病気のために日々弱ってきている。退官してからずっと記録していた円相場の変動もすでに記録できなくなっている。私たち家族は後少しでも長生きしてくれることを祈るばかりである。本稿は父に関する私的なことを書いたが、これを読む人に父の生き方から何かを感じてもらえればと筆をとることにした。また、ここまで育ててくれた父に本当に感謝したい。

父は昨年10月9日に亡くなった。この文章は、その直前に書き下ろしたものである。父の冥福を祈る。

広岡博之

学会ニュース



今年も恒例の年度末学会シーズンが到来しました。修了式や卒業式もそこそこに、研究室から巣立つ人たちとの送別会もゆっくりできないこの日程、毎年もう少し何とかならないのかな～

と思えますね(^^;)。畜産資源からは、日本草地学会仙台大会に田端さんと竹内さんが、日本畜産学会第109回大会(水戸市)の畜産学教育協議会シンポジウムに熊谷先生が、研究発表として熊谷先生、大石先生、田端さんと私が、関連学会・研究集会の家畜育種研究会第46回談話会で西尾

君が、第7回日本山羊研究会で田端さんと私が発表を行いました。詳細は、研究室のHPをご覧ください。< <http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/> >



今回の日本畜産学会は、水戸市での開催だったので、帰りに借楽園< <http://www.koen.pref.ibaraki.jp/park/kairakuen01.html> >へ寄ってきました。名物の梅の花には少し遅かったものの、水戸名物の黄門様ご一行に会うことができたので、一緒に写真を撮ってもらいました～。(ようこ)



今回の日本畜産学会は、水戸市での開催だったので、帰りに借楽園< <http://www.koen.pref.ibaraki.jp/park/kairakuen01.html> >へ寄ってきました。名物の梅の花には少し遅かったものの、水戸名物の黄門様ご一行に会うことができたので、一緒に写真を撮ってもらいました～。(ようこ)

ネパールでの一日

- | | |
|--|---|
| <p>6:00 起床 昨日買っておいたパンを食べる。もちもちした食感が結構美味しい。1日6個食べる。</p> | <p>感じる。体感気温は30度弱くらいであろうか。最後の農家でお茶とビスケットを頂く。農家にはいつも快く協力に応じていただいて感謝。</p> |
| <p>7:00 アパートのおばあさんからお茶の差し入れ。いつものミルクティー。
おじいさんとおばあさんともすっかり仲良くなり、父さん(パパ)、母さん(ママ)と呼んでいる。向こうもまんざらではないようだ。滞在時は常に可愛いがってもらった。愛すべきネパールの親である。お互い言葉はわからないが意思は通じる。不思議なコミュニケーションの世界。</p> | <p>13:35 最後の農家の子供が、今からピクニックに行くというので、マノジュがちょっとだけおやつ代を渡す。子供の心からの笑顔は可愛い。ネパールの子どもの顔は、本当に素直でいいなあと思う。</p> |
| <p>7:10 調査協力者の修士課程学生のマノジュが来る。今日は一緒に農村調査。10km先の村までサイクリング。</p> | <p>14:00 帰りにはロープはほとんどみられなかった。マノジュに聞くと、皆おなががすぐとロープ張りはやめるのだそう。ロープは朝から昼ご飯まで、だそうです。</p> |
| <p>7:30 途中、子ども達がロープを張って通せんぼ。なにやら、祭りだから金をくれといっているらしい。ネパールでは祭りの時によくあることだ。10円程度だから気安く払う。</p> | <p>15:00 アパートにかえって、シャワーを浴びる。すっきりして、心地よい疲労感。洗濯はすべて手洗い。</p> |
| <p>9:00 通せんぼが20回を超え、さすがになえる。マノジュもちょっと苦笑い。札を小銭に分割して払う。子供の笑顔が悪魔に見える。他の人がお金もっていないよと、強行突破。私たちの最終手段はあれだなとマノジュに言ったら爆笑。</p> | <p>15:30 お昼ごはん。いつもの店でいつものメニュー。餃子と焼きそば。いつもこればかりである。飽きないのがすごい。店員も注文を聞かずともわかっている。</p> |
| <p>9:30 農家到着 1つの村で5戸回る。1戸30分程度、今回は最終調査ということで、餌の成分と牛の要求量の結果を農家に話す。喜んでもらえるといいのだが。</p> | <p>16:30 ご飯から帰って、データの整理。フィールドデータからこの国の農業の仕方が見えてくる。</p> |
| <p>13:30 調査終了。この時間になると日差しが強くて結構暑く</p> | <p>18:00 晩御飯。違う店でいつものメニュー。餃子と焼きそば。ホールの子と話す。いつのまにか皆友達(サツティ)。</p> |
| | <p>21:00 おやすみなさい。</p> |

投稿者Y.T.

新連載コラム： 一言一考 ①

「厭うべき 仮の宿りは
出でぬなり 今はまことの
道をたずねよ」

この歌は西行法師の晩年の作である。上の句は人生のしがらみから逃れ得ぬことを意味しているのであろうと一意に理解できるが、下の句の理解はどうであろうか。実利を求める人であれば「まこと」は「実」であろうと考えるし、学究的な研究者であれば真理の「真」と理解するのではないだろうか。また、人生を誠実に生きる人にとっては、「誠」の字を当てはめるかもしれない。このことは、言葉の意味は、その文字自体が持つ定義に加えて、それを見る人の主観によって左右されるものであることを意味する。その前提のもとに言葉と向き合うと、今まで当たり前のように使っていた言葉というものは、非常にあやうく、また含蓄のあるものに見えてくる。

このコラムでは、今まで心にうつつた様々な言葉を定義し、今一度考えてみたい。そうすることで、特殊な主観が見えてくれば面白い。中には、本来のニュアンスとずれてしまうこともあり、多数のご意見をいただくような表現もあると思うが、笑って許していただけると幸いである。単なる考察にすぎないものであるから。

(めんたいこ)

畜産資源の思い出・・・

【金島早紀】

私が畜産資源で過ごしたのは2年という短い時間でしたが、たくさんのことを学び、体験することができました。本当にいろいろなことがありましたが特に印象深いことを挙げるとすれば、農場で収穫した大量のダイショの葉っぱをせっせと乾燥してヤギに食べさせて排泄物や胃液や血液を採取したことでしょうか。修論のテーマそのものです。

卒業後は製粉会社に就職します。研究か品質管理かといった職種や勤務地などはまだわかりません。畜産資源と分野は異なりますが、食料問題を考えるという点ではつながっていますよね。それだけではなく、ここで学んだことや感じたことは自分なりに活かしたいと思っています。とにかく頑張ります。

私がこの畜産資源に来ることができたのは偶然の出来事だったのですが、非常に濃い2年間を過ごすことができ、受け入れてくださったことに大変感謝しています。これを書いている今現在(2月末日)でも無事に卒業できるのか実は少し不安なところもあるのですが、本当にお世話になりました。ありがとうございました

最後に。皆さん、私のことは忘れてください、と本当は言いたいのですが、おかしなことに声を録音されてしまったので(断れない性格、直さ

なければ・・・)、誕生日会が続く限り無理でしょうか。

【田島知之】

『研究室に在籍した中で一番の思い出』
A. やはり夜な夜な行われた麻雀でしょうか、最初に研究室で飼われているヤギの名前がトンナンシャーペーだと聞いたときは衝撃的でした。そんなんでいいのかと(笑)

『今後の進路』

A. 京都大学理学研究科の人類進化論研究室に進学します。密林でサルを追いかける研究というのが小さい頃からの憧れだったので、その世界に足を踏み入れることへの期待と、新たな環境に対する不安が半々です。頑張ります。

『研究室(のメンバー)へ送る言葉』

A. 昨年のはじめまでは、研究室に入らずひとりで頑張ろうと思っていましたが、畜資の皆様に暖かく迎え入れて頂き本当に嬉しかったです。今は畜資の一員でいられたというだけで、農学部に入って良かったなと思えます。皆様の頑張りに負けないように、日々努力していきたいと思っています。近所におりますので、また交流の機会があれば声をかけてください。



平成19年度はくび会総会と送別会



久米先生(右)とはくび会
今年度会長の広岡先生

修了式後、午後3時からはくび会の総会と送別会が開催されました。総会では、各担当庶務幹事からの事業報告と会計報告があり、総員の拍手をもって滞りなく承認となりました。続いて平成19年度はくび会会長を務められた広岡先生の挨拶と、永年副会長の南先生から乾杯の音頭を皮切りに送別会となりました。動物系の研究室が揃うと、いつもどおりの賑わいになりますね。ソフトボール大会で戦った勇士達とも和気藹々、女性陣の振袖や袴姿

もあでやかに、撮影大会も盛り上がりました。今年度は、はくび会の修了生のうち6名が博士課程へ進学するとあって、ますます応用動物系



はくび会修了生一同

の絆も深まりそうな気配です。送別会がお開きになった後、別れを惜しむ飲み足りない(?)人々は、残ったおつまみやお酒を持って去年同様畜資の研究室へ流れ込みました。途中先生方からの軍資金を得て、買出し隊、お料理作り隊も出動し、会は延々夜半まで続いたのでした。

昨年度の総評と今年度の抱負

【広岡教授】われわれの研究室では、ずっと畜産の問題を研究対象として、応用研究と基礎研究の両面から、一生懸命に研究に取り組んできた。その結果として、最近、われわれの研究室では、日本の学会誌ではなく、英語で書いて世界の学会誌に投稿することがスタンダードになってきている。正直なところ、日本の学会にも貢献してほしいと思う反面、日本の学会への発表すらできなかった頃からは、想像もつかないほどに研究室全体の力がついてきたと感じている。より高いハードルを超えようとする学生諸君個々人の研究面でのレベルアップと意識の向上は目を見張るものがある。このところの研究費の採用状況を見ても、畜産の問題を本気で取り上げ、多くの成果を挙げてきたことで、われわれの研究室と研究内容が、徐々にでも日本で認められてきた証拠と思われる。また、半年間われわれの研究室に在籍し、同じ釜の飯を食べてきた荻野さんが、今年の畜産学会奨励賞に選ばれたこともうれしいかぎりである。

この間の研究室のレベルアップは、学生諸君一人ひとりの努力の賜物である。また、一昨年から本格的に山羊や牛を使った実験が始まり、海外での研究も盛んになってきた。この方面の研究成果が、大学外からも大学内からも待たれているところである。今春、研究室を「卒業」する人も、残ってさらに研究を進めようとしている人も、われわれの研究室に誇りをもってほしいと思っている。

今後は、今まで以上に努力して学生諸君が研究しやすい環境を作って行きたいと考えている。個々の学生諸君がその能力を最大限に活かせるようになってくれることを心から望んでいる。その環境作りこそが、スタッフとしてのわれわれの最大の使命である。

来年度から博士課程の学生が増え、今後研究者として十分に力を発揮できる職場を確保することが、われわれの当面の最も重要な責務であろう。また、学生諸君も、さらなる研究のレベルアップと人格、品位の向上が望まれるところである。とくに、助教やポスドクには、研究能力はもちろんのこと、人間性や事務能力も期待される。私の経験上、厳しい競争に勝ち抜くためには、協調性があり、雑用も進んでできる人材が、よりチャンスを得る可能性が高くなるように感じられる。研究のみを考えていると、このような点がなおざりにされる傾向にあるが、われわれの研究室ではそのような点も十分に鍛えてゆきたいと思っている。

今年1年を振り返り、来年への抱負として以上のようなことを考えている。

【熊谷准教授】一昨年から動き始めた飼料評価の系が一応の定着しましたが、カニニューレ装着動物の維持管理に問題が残りました。今年度も引き続き飼料評価や飼養試験を行う予定ですので、まずこの系を完成し、いつでも試験が行える環境にしたいと思います。

一方、新たなプロジェクト「アジアにおける牛・水牛の産肉性・栄養素の利用性と、栄養水準との関係解明」が昨年度から始まり、当研究室とネパール国トリブバン大学のグループおよびタイ国プリンスオブソンクラ大学のグループとの共同研究がスタートしました。ネパールでは水牛雄子牛の買い付け、タイでは繁殖雌牛の導入と草地の更新を終え、試験に臨みます。お互いの交流はさらに深まることでしょう。国内外のプロジェクトが同時進行する大変忙しい年を何とか乗り切っていきたいと思っています。

【大石助教】昨年は自身としてもポストについて1年目で、力の足りない面も多々あったと思いますが、みなさんのがんばりのおかげで研究室にとっていい1年を送れたと思います。今年はインドネシアからのイクバルさんなど新たなメンバーも多く配属するので、また新たな雰囲気のもと全員で研究室&研究自体を活性化していければと思います。

お知らせ

応用生物科学専攻の新入生歓迎会

日時：4月8日（火）17：30から

場所：旧演習林事務所、枝垂れ桜の庭

（雨天の場合は旧演習林会議室）

参加は自由ですが、時間のある人はできる限り参加してください。なお学生は無料です。

畜産資源新入生歓迎会

イベント係は、研究室の新入生歓迎会を企画しています。日程等詳細は追ってご連絡します。今回は外開催を予定していますが、リクエストも募集中です。

イベント係



Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今年度のゼミは、毎週水曜日14:45からW-210教室です。今月のゼミは、
4月 9日(水) オリエンテーション
16日(水) 竹内・児嶋(文献紹介)
23日(水) イクバル(文献紹介)・柳(四回生演習用)
30日(水) 椎野(文献紹介)・中川(四回生演習用)
の予定です。変更等の連絡にご注意下さい。

ゼミ係

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、竹内さん(22日)です。お題はチョコレートケーキ+αです。開催日程は追ってご連絡します。



今月のおみや

3月は学会で地方に行く人が多かったので、あちこちのお土産が届きました♪一部をご紹介します。萩の月(仙台)、東北限定じゃがりこすんだ(仙台)、銀座松崎煎餅梅ざらめ(東京)ありがとうございます。いただきま〜す!



研究室メンバーの動き

4月から畜産に新メンバーが5名加わりました。新修士1年生の木村君とインドネシアからの留学生イクバルさん、研究生の酒井君、新4回生の中川さんと柳君です。新メンバーには追いついてGoat Bulletin上で自己紹介をしてもらいたいと思います。皆さんよろしく申し上げます〜☆

2008年 4月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
3/30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14				18	19
20	21			24	25	26
27	28	29	30	5/1	2	3

今月の飼育当番表は、現在調整中です。
決定次第追ってご連絡差し上げます。
山羊係

編集後記 いよいよ平成20年度が幕を開けました。研究室を巣立った皆さんは、新しい環境で新しいことにチャレンジしていることと思います。思い出のアルバムをたまには開いてみんなのことを思い出してほしいですね☆3月12日には山羊たち(トンちゃん、シャーちゃん、ドラちゃん、ウラドラちゃん)が愛知県へお引越ししました。そのときの様子は近々アルバムかGoat Bulletin紙上でご紹介します。